

## 新体制でスタート

～玉浦コミュニティセンター運営開始式～

指定管理者制度による運営がスタートしたことに伴い、玉浦コミュニティセンターで運営開始式が開催されました。指定管理者は、地域の協力団体が組織された「玉浦まちづくり協議会」です。

開始式では、市長から協議会の会長である大宮一晴さんに協定書が伝達されました。大宮会長は「指定管理を受けると共に協力をいただけた方々に感謝したい。これからは地域をより活性化させていきたい」と話されました。

4/1



▲市長から大宮会長（右）に協定書が伝達されました

## 交通事故のないまちへ

～春の交通安全運動～

市内の商業施設で、「令和2年度春の交通安全運動」の一環である啓発活動が行われました。交通安全母の会の皆さんが、2日間にわたり、買い物に来た方へ交通安全を呼びかけるチラシを配布しました。

施設の出入り口に立ち、買い物が終わって帰宅する皆さんに、「気を付けてお帰りくださいね」と優しく声を掛けて見送りました。

交通事故は運転する側だけでなく、歩行者も気を配る必要があります。運動の期間だけでなく、日ごろから交通ルールを守り、交通事故のないまちにしていきたいでしょう。

4/14



▲チラシと記念品を手渡しました

## 寄付寄贈いただきました

～フレスコ㈱と

岩沼ロータリークラブより～

4月15日、フレスコ㈱（菊地盛夫代表取締役社長）より、市内の各小学校にキッズ用ドッジボールなどのスポーツ用品やマーチング用キーボードなどの教育備品を寄贈いただきました。

また30日には、岩沼ロータリークラブ（鳥羽透会長）より、市内の各小・中学校に新型コロナウイルスの感染予防対策用として、ハンドソープと寄付金をいただきました。ご厚意に感謝します。

4/15、30



▲フレスコ㈱  
菊地代表取締役社長（右）



▲岩沼ロータリークラブ  
鳥羽会長（右）

## 新たな利用の場を

～被災用地へ菜の花の作付け～

蒲崎地区で、東日本大震災によって被災した集団移転跡地を新たに利用するための第一歩として、菜の花が作付けされました。

震災後に営農を再開された農事組合法人玉浦南部生産組合によって、今後農地として利用するために土壌改良の一環として行われたものです。

昨年に種をまき、今年初めてきれいな花が咲きました。

ゆくゆくは組合での農作物の栽培や、次世代の農業の担い手に利用してもらいたいとのことでした。

4/28



▲力強く花を咲かせていました